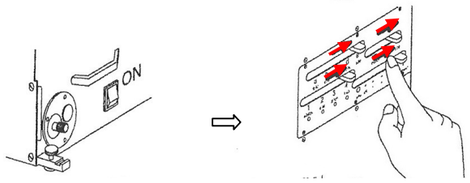
動的量的(ゴールドマン投影式)視野計の準備

目的　視野に影響する視標輝度と背景輝度の設定

準備物 検査用紙

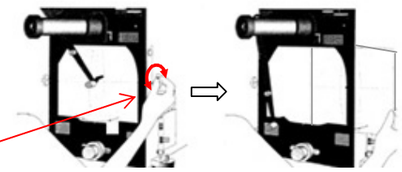
図) 器械説明書より抜粋



水準器を使って視野計を水平に保つ

検査用紙を入れ、水平･垂直を合わせ固定する

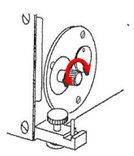
半回転させると固定板が引っ込むので用紙を差込み経線に合わせ、さらに逆回転か半回転して用紙を固定する。
用紙のズレを防ぐ為、片方ずつ回転させて固定すること。



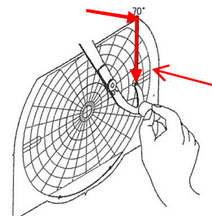
輝度調整をする

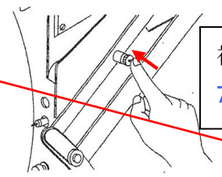
TAKAGI 製の場合

メインスイッチを ON にしドーム内よりも部屋を暗くして、フィルターレバーを全て右側Ｖ/4eにする

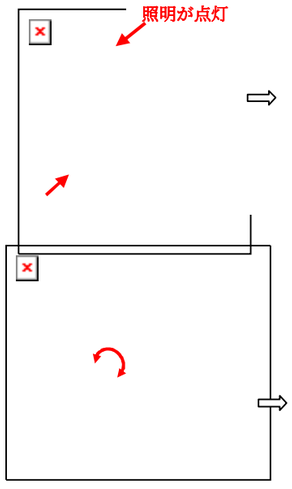


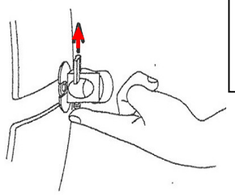
ドーム内に視標が投影されていない時は、シャッターハンドルを回転させ、視標が常に投影されるようにする



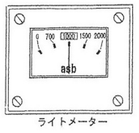


視標を用紙の右水平 70° の位置に合わせ、視標を右水平 70° の位置に保持しながらパンタグラフを押し込んでロックする



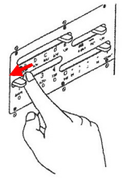


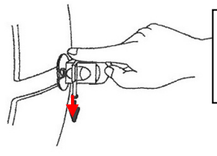
メーター内の照明が点灯するようにライトメーターのスイッチを押して ON にし、スクリーンを上に上げる



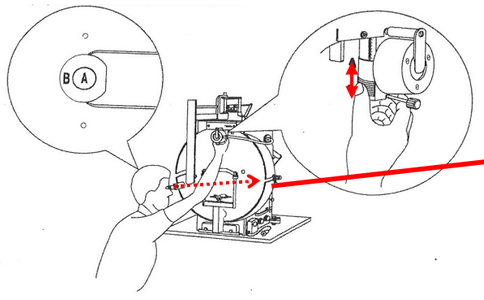
主光源用スライダック(MAIN ILLUM)を調整しライトメーターを 1000asb (1430Lx) に合わせる

1000 にならない時は電球のフィラメントを逆にしたり、新しい電球に交換が必要。Weber の法則であまり気にしなくても良いという説もあるが･･･。視能学 P74

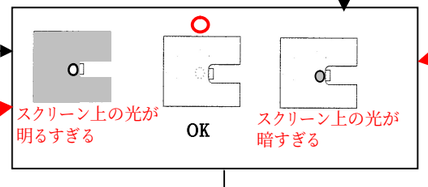




左下のフィルターレバーをＶ/1e (視標輝度 31.5asb) にしてスクリーンを下げる



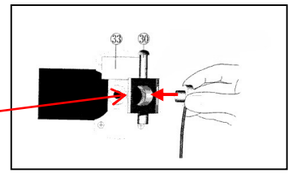
照度望遠鏡をのぞきながらＡとＢが同じ明るさになるようにスライドカバーを上下させ、背面輝度を 31.5asb にする



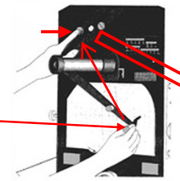
固定ソケットから固定ピンを抜き、上方の 0° 固定ソケットに固定ピンを押し込み、検査用紙の 0° とドームの固視点が合っているかを確認する

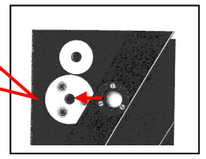
TAKAGI 製の場合

レバーを全て右側に寄せＶ/4eにし、ライトメーターを受光板差込み口に入れ、視標が常に投影されるようにする

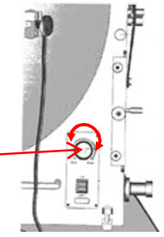
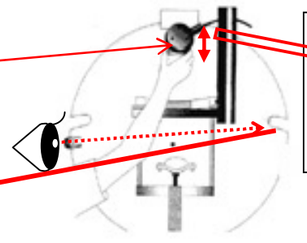
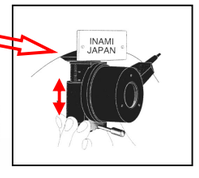


メインスイッチを ON にしドーム内よりも部屋を暗くして、用紙の右水平 70° の位置にアームを動かし固定ピンを固定ソケットに押し込み固定する





白色板を上げ、投影された視標が受光板に当たっているか確認し、必要ならば読み取り照明をつけライトメーターの目盛りが 1000asb (1430Lx) になるように輝度調節ノブを回す



白色板を下げ、視標をＶ/1e (視標輝度 31.5asb) に変え、背面輝度設定用望遠鏡を望いてドームの明るさと同じになるように眼で見てスライド式絞りを上下に動かす